

# 誰もが活躍できる社会に

## 盲ろうの中田選手が講義



ユニフォームを着て  
講演する中田さん

「盲ろう者や障害者は『できない』と周りの人が決め付けている。少しのサポートがあればできることはたくさんある」。日本で唯一の盲ろうのトライアスロン選手、中田鈴子さん

盲ろう者や障害者  
横浜市の横浜国立大の  
講義で、自身の体験を  
踏まえて学生らにメッ  
セージを送った。

中田さんは生まれつ  
き弱視で耳が聞こえ  
ず、30代で盲ろう者に

なった。厚生労働省の調査では盲ろう者は全国に約2万3000人いるが、中田さんは「人数が少なく社会に知られていないので活躍する場もない」と話した。

盲ろう者のコミュニ  
ケーション手段には中  
田さんが使っている触  
手話(盲ろう者が話し  
手の手話を手で触って  
読み取る)のほかに、  
指点字(盲ろう者の指  
を点字タイプライターの  
キーに見立ててタッチ  
して伝える)もあり、  
「コミュニケーション  
は不便だけど不幸では  
ない」と述べた。

トライアスロンは47  
歳で初めて挑戦した。  
体調不良を克服するた  
め医師の勧めでマラソ  
ンを始めたことがきつ  
かけだった。当初は泳  
げなかったが、現在ま

でにトライアスロンの  
大会で40回以上完走し  
ている。

中田さんは、トレ  
ニングをするにも障壁  
があるため、何度もや  
めようと思ったが、  
「いろいろな人に支援  
を受け、トライアスロ  
ンを通じてたくさんの  
人となることができ  
きた」とし、「自分の

ためだけではなく、盲  
ろう者や障害者はチャ  
レンジする機会があれ  
ば、いろんな可能性が  
あることを私が広めて  
いきたい」と語った。

また、通所している  
京都府の「さんさん山  
城」(就労継続支援B  
型)でも、職員や利用  
者に支えられながら農  
作業や調理などできる

講義を聞いた学生は  
「盲ろう者は支援され  
る人のイメージだった  
が変わった」「周りの  
人の協力が大切だと思  
った」と話した。

中田さんの講義は  
「ダイバーシティ概  
論」の授業の一部で学  
生や教職員が受講し  
た。  
(榎戸新)